

学校教育目標	豊かな心をもち、共に学びあいささえあう心身ともにたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守り、互いに認め合い支えあうことのできる集団づくり(学びに向かう人間性の涵養)</li> <li>・自ら考え、進んで表現することのできる子どもの育成(生きてはたらく知識技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成)</li> <li>・健康な生活を支えるための体力や生活習慣の向上(生きてはたらく知識技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成)</li> </ul>

児童生徒の課題	<b>学力状況について</b> 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ①国語については、漢字の習熟に弱点がある。また説明文を段落ごとのつながりで読み取ることに弱みがある。 ②算数については、およその数や量など見通しを持って図や表に表して考えることに弱みがある。	<b>学習状況について</b> 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・学習に対して、すぐにあきらめる子や無気力の子がおり、学習の大切さを教え、学習に向かう意欲を育てる必要がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 学習習慣が身に付かず、家庭学習をきちんとできない児童が一定数いる。また忘れ物が多い児童も固定されている。家庭の生活状況が厳しい児童もおり、保護者の協力が得られない家庭もある。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ○教職員の「学力の底上げ」に関する5項目のアンケートの肯定的回答は90%以上となった。特に、「めあて・課題・まとめ・振り返り」を適切に位置付けた授業をしていて、かつ「新大分スタンダードに則った授業の定着率」は100%であった。 <b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ○職員全員で学力テストの詳細な分析を行い、今後の手立てを確認することができた。 ○小中連携を図る上から、「明野地区学習のきまり」を意識した指導を行うために、「明野地区学習のきまり」を夏休みの小中連携合同研修会で作成を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により作業は各校で行っている。 ○授業で自分の考えを図に表したり、説明したりすることができた。	

学力に関する達成指標

- ・単元のまとめテストの平均を85点以上にする。
- ・学力調査で国・県・市の平均を上回る。

今後の具体的な取組	<b>【授業改善】</b> <授業改善のテーマ・重点> (テーマ) 協働して学び合う子どもを育成する授業の創造 (重点) ○対話の場の設定 ○協働して解決したくなる工夫 ○主体的に学び合う子どもの姿	<b>【家庭・地域との協働】</b>
	<取組内容> ①ペア活動・グループ活動を適切に位置付けた、学びあいを大切にした授業展開を工夫する。 ②「わかる授業」に取り組む。	<家庭・地域の取組内容> ○子どもが授業の準備をしているか確認をする。 ○家庭学習の時間を確保できているか指導する。
	<取組指標> ①ペア・グループ活動を工夫した授業を1日1回以上行う。 ②新大分スタンダードに則った授業の定着率100%。(全員が取り組む)	<家庭・地域の取組指標> ○毎日、忘れ物がないように、持ち物の確認をする。(保護者アンケート85%以上) ○毎日の家庭学習の時間を確認する。(保護者アンケート90%以上)
	<検証指標> ①学校評価アンケートで「授業中、友だちの話を聞いたり自分の考えを言ったりできた」と答える児童80%以上 ②学校評価アンケートで「授業がわかる」と答える児童80%以上	
	<b>【授業改善以外の学力向上の取組】</b> ・互見授業 ・弱点分野の補充学習 ・基礎学力定着が不十分な児童に個別指導の実施	